

令和7年度「市民と市長のふれあい対話」（奄美看護福祉専門学校）での主なご意見と市の対応

2025.6

No.	地区	項目	意見要約	市長回答等	所管課	所管課補足
1	古見方地区	ふれあい対話の開催周知等について	ふれあい対話に参加できない高齢者がいるかと思うので、市からバスを出して開催することはできないか。また、防災行政無線で地域を限って放送することはできないか。	ふれあい対話の参加者増加のために、市民の皆さんの地域に近い集会場などで開催させていただいております。ふれあい対話のために、交通手段を確保することについては、現実的に難しいと考えておりますので、よければ、皆さん乗り合わせなどでご参加いただければと思います。当方もなるべく細かく回数多く、市民の皆さんの住まいに近い場所で、ふれあい対話を開催できるように検討したいと思います。防災行政無線でエリアを限って周知をすることは、会長のご協力もいただきながら、こちらも検討したいと思います。	プロジェクト推進課 総務課	(プロジェクト推進課) 補足なし (総務課) 奄美市の防災行政無線は、各子局(電柱+スピーカー)ごとに放送することが可能となっております。
2	古見方地区	修学旅行や遠足での補助について	大川中学校は3学年合同で修学旅行に行くことになった。市から補助が出ることはありがたいが、各中学校ごとに補助額に差がないか。また、小学校で遠足時にバスを利用する場合、補助などを活用しても自己負担が2,000円以上かかると聞いている。	基本的に各学校平等に補助をさせていただいていると思います。市の補助を活用して、どのように学校運営を行うかは、各学校で判断いただいております。ちなみに、金久中学校においては、友好都市の千葉県芝山町の中学生と交流することに対して追加で補助をさせていただきました。これは若い世代の皆さんが修学旅行で飛行機を使っただけ、航空路線の維持に寄与するよう、今年度から取り組んでいるものです。	教育委員会 学校教育課	へき地児童生徒援助費 修学旅行に参加するすべての児童生徒に対する援助費 小学生・・・25,000円, 中学生・・・48,000円 友好都市への修学旅行における補助 児童又は生徒1人につき5,000円以内 上限額1校につき30万円 ※友好都市・・・兵庫県西宮市, 大阪府豊中市, 千葉県芝山町
3	古見方地区	鹿児島県の移住支援金について	鹿児島県の移住支援金を奄美市はなぜ取り組んでいないのか。	移住支援金について、以前は本市も取り組んでおりましたが、応募が少なかったことや、支給要件のハードルが高いこと、東京23区以外からの移住については支援金を支給することができないなど、様々な理由から現在は実施していないところです。現在は、より柔軟に、より多くの移住者に補助ができるよう、別の制度を創設して実施しております。具体的には、情報通信業、宿泊業、公共交通、建設業、介護・福祉業、大島紬業など支援強化業種に就かれた移住者へ、資格等に応じて15~20万円を支給しております。	プロジェクト推進課 商工政策課	(プロジェクト推進課) (商工政策課) 補足なし
4	古見方地区	農地の宅地転用について	農業振興地域においては、宅地転用が難しいが、2ヘクタール以下ならば市の判断でできると思う。許可に関して、用途が決まっているのであれば、どのような用途であればよいのか。	市から独立した農業委員会が判断するものと思いますが、農業振興地域の宅地への転用は大変難しいものと理解しております。転用したい場所などについて、具体的に考えておられるのであれば、個別に教えていただければと思います。	農林水産課 農業委員会	農業振興地域の中でも「農用区域」に指定された土地は、国の食料自給率を守るため、農業用として確保すべき大切な土地です。そのため、原則として家を建てるなどの宅地転用はできません。住宅などに使いたい場合は、まず市の農林水産課で「農用区域」から外す手続き(農業振興地域整備計画の変更)が必要です。その後、農業委員会が農地転用の許可申請を行う流れになります。 また、2ヘクタール以下の土地でも、市が自由に許可できるわけではなく、国の「農地転用許可基準」に基づき審査されます。一般的に認められやすいのは公共施設や農業関連施設であり、転売目的の宅地造成や大規模分譲住宅などは許可されにくいのが実情です。
5	古見方地区	特認校の周知について	集落の過疎化防止に向けて、特認校があると認識しているが、特認校のメリットを積極的に周知いただき、保護者が特認校の入学を具体的に検討できるようにしてほしい。	特認校ごとに大きなメリットや強みがあると理解しております。それぞれの学校ごとに、学校活性化に向けた協議会を中心に協議・検討を行っておりますので、学校と一緒に学校ごとの強みを周知いただきたいと思います。本市としては特認校以外の学校も平等に考える必要がありますので、ぜひ地域の皆さんの積極的な取り組みや周知をお願いできればと思います。	教育委員会 学校教育課	各特認校、ポスターを掲示したり、ホームページを充実させたりと工夫を凝らして周知に尽力しております。本市といたしましては、教育委員会としてできることを更に考えて参りたいと思います。
6	古見方地区	遊び場の整備について	子育てしながら、奄美看護福祉専門学校に通学している。特に冬場に室内で遊ぶところが少ないと感じる。遊び場の整備など、今後の予定を教えてください。	以前より、雨の日や冬場、また猛暑の日など、室内で安全に遊ぶ場所が少ないと言われてきましたが、近年、様々な場所にキッズスペースが設けられてきております。具体的には、住用の奄美体験交流館や商店街、以前の政小児科前の薬局跡、移動式のキッズスペース、笠利の公民館などがそうでございます。まずは、情報をしっかりと市民の皆さんに届けられるようSNSなどを通じて発信していき、内容の改善や場所を増やすなど、市民の皆さんのご意見をいただきながら、民間の皆さんと行政で知恵を絞って、充実を図ってまいりたいと思います。また、港町の旧測候所跡地において、子育ての拠点施設を整備することも検討しております。	重点政策推進監 こども未来課	(重点政策推進監) (こども未来課) 補足なし

No.	地区	項目	意見要約	市長回答等	所管課	所管課補足
7	古見方地区	病児保育施設について	子育てしながら、奄美看護福祉専門学校に通学している。子どもの急な体調不良で、看病が必要な際に、病児保育ができる施設が2ヶ所しかない。安心して通学、あるいは就労するために、病児保育ができる場所を増やせないか。社会人が通いやすくするために、奄美看護福祉専門学校のそばにあればなお良いと思う。	病児保育施設の数が少ないのご意見について、庁内で検討してまいりたいと思います。現状として利用状況が多くなく、施設数を増やすとの議論になっていないところですが、貴重なご意見として今後に活用させていただきたいと思います。	こども未来課 企画調整課	(こども未来課) (企画調整課) 補足なし
8	古見方地区	通学バスについて	高校に通っていた際に、バスの本数がどんどん少なくなっていき、帰宅するまでにかなりの時間を要するなど、大変困った。運転手不足は全国的な状況と思うが、島内の高校を選択する際に、通学手段の確保は重要と思うが、どのように考えているか。	現在より人口が多かった時代から比べ、人口が減少することに伴い、バス利用者も減っていき、バスの本数自体も減少していった状況にあると思います。現在路線バスについては、しまバスに運行を担っていただいておりますが、定期的に路線や運賃の見直しなどしており、高校生の通学については特に配慮いただいていると思います。今回のお声については、あらためてしまバスにお伝えしたいと思います。現状、しまバスにおいても人材不足や燃料の高騰などで、思うようにバスの本数を増やせない状況にあることも伺っておりますので、関係機関で知恵を絞ってまいりたいと思います。	商工政策課	補足なし
9	古見方地区	津波警報の際の避難について	以前津波警報が発出された際に、ループ橋で渋滞に巻き込まれてしまった。住んでいる場所ごとに、避難方法や避難先などを分けておいた方がよいのではないかな。	2022年の津波警報の際には、奄美で初めての津波警報だったこともあり、皆さん大変驚かれて避難されたことと思います。初めてだったこともあり、市内各地、平田町のループ橋、大浜海岸へ行く道路、自然の家に向かう道路などで渋滞となるなど、課題が残りました。その後、鹿児島県、警察、消防等と課題を共有するなかで、渋滞の原因である、途中で車を止めてしまうことがないよう、ポイントごとに警察や消防団の方に立哨いただいで頂上まで上っていただくよう誘導する、ことなどを対応として検討したところです。また、市民の皆さんに認識いただきたいのは、南海トラフ地震においては、津波が6~7m程度、到達まで1時間程度と想定されていること、喜界島沖地震においては、20~30分程度で9m程度の最大津波が想定されていることでございます。津波の状況に応じて、垂直避難なども念頭に入れたうえで、冷静に避難先や避難方法について、ご検討と対応いただければと思います。同様の話しを様々な場所や機会を捉えて、市民の皆さんにお伝えさせていただいております。	総務課	津波発生時における避難行動は、東日本大震災の教訓を踏まえて、原則として徒歩での避難が推奨されています。津波の規模によってどのような行動をとればよいのか、また、どのような備えをすればよいのかは、自治会や集落において出前講座等を活用して頂けたらと思います。
10	古見方地区	集落の人口増について	小湊集落の人口が増える、子どもが増える方策がないか。	(副市長) 日本全体、奄美市全体が人口減少、少子高齢化するなかで、個別の集落だけ人口を増やすことは大変難しい問題だと思います。集落到に居住する方々が「住んで良かった」と思えることが、集落としての魅力となり、大切なのではないかと思います。これを行ったら人口が増えるという妙案はないと思いますので、皆さんと知恵を絞ってまいりたいと思います。	プロジェクト推進課	補足なし
11	古見方地区	農業用水の給水スタンド設置整備について	農業用水のパイプラインが破損して、給水車などで対応いただいている。パイプライン自体が老朽化しているため、同様の破損がいつ起こらないとも限らないので、給水スタンドをいくつか設置して、多くの農家が使えるように整備をお願いしたい。	給水スタンドなどの施設が必要ということを農林水産課の方にご要望いただければ、しっかりと検討してまいりたいと思います。その上で、基幹管路の更新についてもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。	農林水産課	給水スタンドについては、大川地区パイプライン推進協議会の方でも話が上がっておりますが、優先度及び管理面を含めまだ協議中の段階であります。基幹管路の整備を行いつつ、検討させていただければと思います。
12	古見方地区	農地におけるアカギについて	農地のキワにアカギがたくさん生えている。市の所管と思うので、早目の対応をお願いしたい。	アカギが生えている場所が市の土地であれば、市の方で対応しますので、農業研究センターの方に場所をお伝えいただければと思います。	農林水産課	市の土地か確認する必要がありますので、場所を農林水産課にお知らせください。